

## 第34回 経営協議会議事要録

日 時 平成23年1月27日（木）14時05分～15時10分  
場 所 事務局第二会議室  
出席者 宮田亮平学長、三浦春政理事、井橋光平理事、  
池田政治美術学部長、植田克己音楽学部長、  
石田義雄委員、高階秀爾委員、滝 久雄委員、  
遠山敦子委員、福井俊彦委員、中村胤夫委員  
欠席者 藤幡正樹映像研究科長、  
陪 席 監事：竹内雄也監事  
渡邊健二理事、田口榮一附属図書館長、関 出大学美術館長、  
杉木峯夫演奏芸術センター長、宮廻正明学長特命、多田羅迪夫学長特命

### 議題

1. 入学手続き時における授業料の徴収について  
議長から標記のことについて提案があり、三浦理事から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。
2. その他 特になし

### 報告及び連絡事項

1. 平成23年度収入・支出予算額等について  
標記のことについて、三浦理事から、資料に基づき報告があった。
  1. 東京藝術大学アクションプラン（改訂版）について  
標記のことについて、三浦理事から、資料に基づき報告があった。
  3. 平成23年度経営協議会開催日程について  
標記のことについて、総務課長から、資料に基づき報告があった。
  4. その他（昨今の本学をめぐる諸情勢について）  
○議長から、下記のとおり報告があった。
    - ・文化庁長官と首都圏及び国公立芸術系大学学長によるシンポジウムの開催について  
(12/21)
    - ・五芸術大学長懇話会への出席について（1/19、於：愛知県立芸大）
    - ・文化審議会から文部科学大臣に対する答申「文化芸術の振興に関する基本的な方針（第3次）について」について
- 宮廻学長特命から、机上配付資料「オペラ 遣唐使」について報告があった。

○美術学部長から、机上配付資料「美術学部・大学院美術研究科修士課程 卒業・修了作品展」について報告があった。

○附属図書館長から、高階秀爾氏による講演会「花の色は、うつりにけりな・・・－絵画と文学－」及び机上配付資料「原寸大複製で見る日本・東洋絵画芸術展」について報告があった。

○音楽学部長から、机上配付資料「尾高压淳忠退任記念コンサート」、「管打楽器シリーズ～サクソフォン・アンサンブルの夕べ～」、「東京藝大チェンバーオーケストラ第16回定期演奏会」、「藝大定期 室内楽」について報告があった。

#### その他（助言、提言等）

○文化庁長官と芸術系大学学長とのシンポジウムの副題「豊かな感性 強い日本へ」を実現するには、世界の大学とネットワークを構築し、世界最高水準の人材を引きつける必要があると思われるが、芸大の場合は美術も音楽も和洋両方の分野があり、何処にポイントを置いて目指すのか。また、世界を引きつけるには言語の問題があり、一般の大学では英語による授業を実施するところが増えているが、芸大はどう対応するのか。

○文部科学省キャリア教育・職業教育特別部会の委員をしているが、芸大（卒業者）と職業、キャリア教育をどのように考えているか。

○他の多くの一般大学は、卒業生を組織体の一部（官公庁・企業等への就職）として活躍できるような教育をしているが、芸大は個人で生きていける（作家、演奏家等）ように個を磨くことを第一とした教育をしている。これは芸大の特徴であり魅力の一つだ。

○新国立劇場では、日本人作曲家の作品によるオペラ公演を年1回実施している。1公演4週間の公演スパンで実施しており、拘束期間が長く、芸大の優秀な教員に出演してもらいたい、学生へのレッスン等があり難しい状況である。もう少し教員の勤務態勢を柔軟にし、レッスンは補講等で対応できるような体制にしてもらえると、芸大の教員に出演してもらえる機会が増す。

○「東京藝術大学アクションプラン」においてアジアとの関係を重視しているが、実際にはどのようなことを実践しているのか。

○芸大は活発な社会連携を通して、学生が大学外に出て活動することが盛んに行われている。ところが、他分野の大学、特に理工系の大学においては、社会に出て活動することが苦手な学生が多い。そこで芸大が社会連携のハブ的存在になり、他分野の大学と連携して社会連携活動を行い、これを通して他大学の学生が社会へ出て行けるようにしてはどうか。

○芸大が今後発展していくためには、国際交流の一層の推進が望まれる。